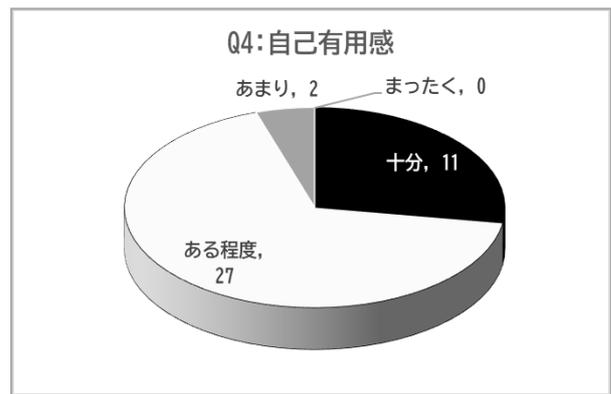
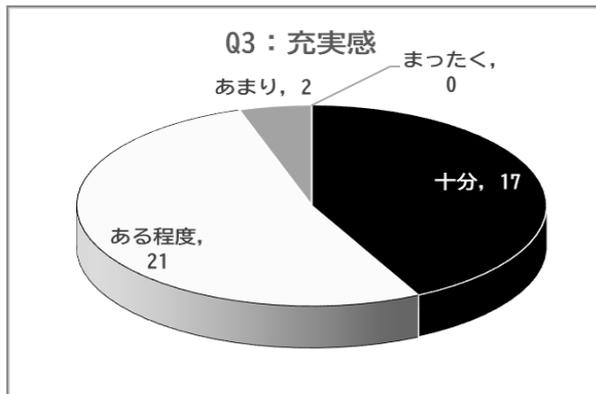
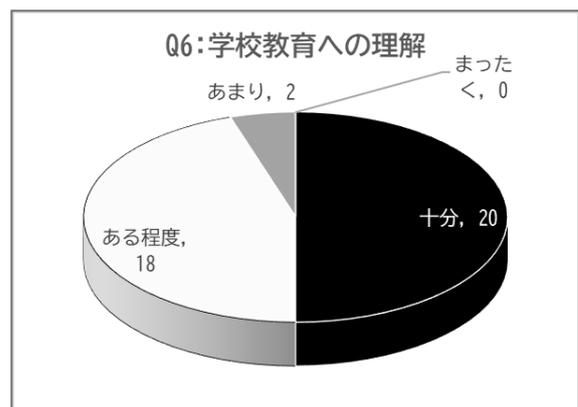
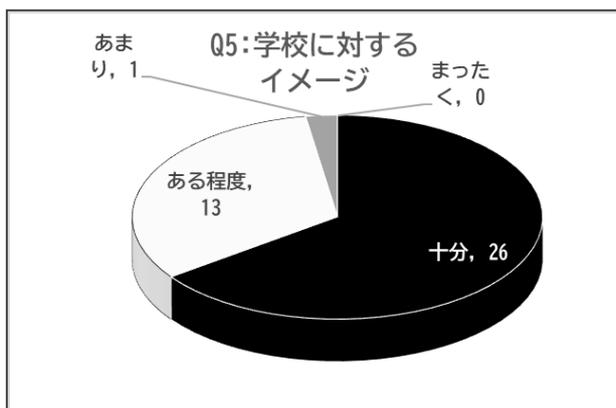


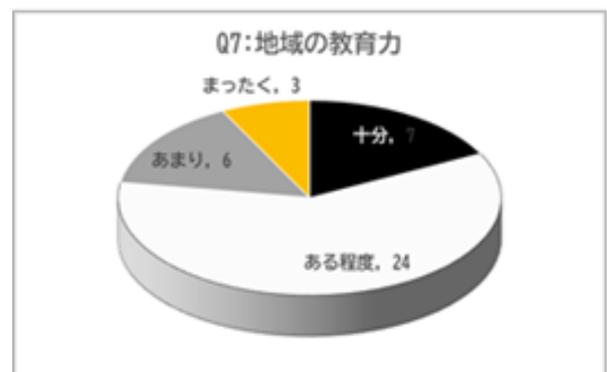
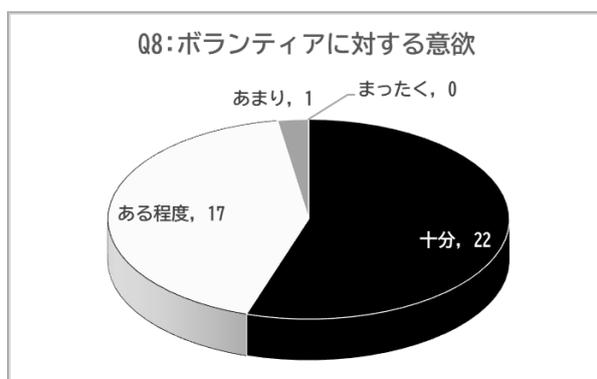
2 調査対象:学校支援ボランティア(16学習センター40名抽出)
(調査期間:令和4年2月1日~2月14日)



Q3・Q4の項目についてはおおむね肯定的な回答であった。地域ボランティアにとってこの事業が生きがいづくりにつながっていると推測される。なお、Q4「自己有用感」については「福島市教育振興計画(令和3年度～令和7年度)市民の共創による持続可能な地域づくりの推進」の指標になっているので次年度以降の推移に注目したい。



Q5・Q6 の学校との関係性を測る数値については令和元年度と比較しても大きな伸びを見せており、今後この事業を通し地域と学校の関係がより良好なものになっていくことが期待される。



Q7 については令和元年度のデータとの比較でも横ばいでボランティアからも地域全体の様子は十分把握できていないという反応があった。アンケート項目として検討が必要である。

ボランティア自由記述

主な感想

- ・様々な場面で学校と関わることができた。(読み聞かせ・ミシン指導・昔あそび・学校支援等)高齢ではあるが、できることがあれば支援を続けたい。
- ・物作りにおいて、物を大切に作る心を養いたいと思っている。また、最後まで頑張る人には感謝することを伝えたい。
- ・学習センターの方が中に入ってフォローしてくれるので、とても活動しやすい。
- ・地域の歴史学習で興味を持って学んでくれた。子どもたちの感想文から興味関心の高まりが伝わってやりがいを感じた
- ・子どもたちの挨拶がとても元気で、学校側の指導が行き届いているのを感じた。授業中におしゃべりしてしまう子どもたちを先生が注意する場面もあり、学校の先生たちの大変さが伺えた。先生や子どもたちへお手伝いを出来た事が良かったと思う。ボランティアの時間はあっという間に感じるほど楽しかった。
- ・先生の指導と私たちの専門的な技術の違いを感じるような場面があり、戸惑った。先生の指導の大変さを感じた。

主な意見・要望

- ・受験生(中3)のミシンの指導は生徒たちの習おうとする気持ちが伝わらず、実施することの有無に疑問を感じた。
- ・コロナ過で思うようにできなくて残念である。地区外にも出張して手伝いたい、オファーがないと行けないのが残念である。
- ・図書室の整備や図書修繕のボランティアを行っている学校があれば、教えていただきたい。庭坂小の校長先生が話した際に、授業で使う図書を市立図書館から借りてくるのに取りに行ってくれるボランティアがいるとありがたいと言っていたので、そういったボランティアをやれば活動したい。
- ・先生方が多忙で打ち合わせ時間が少ない。学校側としての支援も必要であるため、両者が協力しあってやってほしい。
- ・入試や卒業式が控えているという時期でなく、もう少し早い時期に家庭科のミシン等のボランティアを入れることはできないのか。
- ・毎年、戦争中の生活内容について話すことを行っているが、戦争についてどこまで内容を語ればよいのかについて事前打ち合わせで指導してほしい。

